

自転車の全日本学生eレース

八学大勢が1、2位



寺澤・畑崎選手 市長に報告

小林市長（中央）に好成績を報告した
寺澤選手（左から2人目）と畑崎選手
（同4人目）

八戸

2月に開かれた第1回全日本学生選手権自転車競技eレース大会男子の部で、八戸学院大学自転車競技部の寺澤アンドリユウ選手（2年）が優勝し、畑崎大輝選手（1年）が準優勝を果たした。両選手は23日、同部の松井克明部長、三浦康崇監督と共に八戸市庁を訪れ、小林真市長に喜びを報告した。（千葉真由美）

◇ 同大会は新型コロナウイルスの影響を考慮して初めて行われたバーチャルレースで、トレーニングアプリ「タックス」上に設定された長野県王滝

村の御嶽湖周回コース（距離18・1キロ、獲得標高147メートル、最大斜度7・9％）で行われた。

男子の部には、八戸市内からウェブ参加した両選手を含め各地から12人が参加。専用の機材を使って実際に自転車を通じて、タイムを競った。その結果、寺澤選手は27分14秒で1位、畑崎選手は27分20秒で2位と上位を独占した。

三浦監督はeレースについて「実際のロードレースと違って景色が変わらないため、精神力が問われる」と説明。寺澤選手は「冬期間は積雪のため室内練習が中心だったが、1、2位を取れてうれしい」、畑崎選手は「これからもeレースで好成績を収められるよう頑張りたい」と語った。

小林市長は「コロナ時代の中、実力勝負の場で好成績を挙げたのは素晴らしいこと」とたたえた。